台大日本語文研究第 37 期
2019 年 6 月，頁 1-17
2019-03-04 收稿，2019-06-01 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP.201906_(37).0001

從女性生態主義觀點閱讀村田沙耶香《超商人類》：有關學習型人工智慧 AI 類型主角的誕生

曾秋桂*

摘要

根據藤田直哉指出，第二次世界大戰之後的日本興起的「肉體文學」風氣，而東日本大震災之後的日本則盛行了一股「生殖文學」風潮。在「生殖文學」眾多的作品當中，有些積極鼓吹須對未來的生命善盡責任，同時也有一股面對未來選擇毀滅的「消滅主義」。其中以榮獲第 155 屆芥川賞的村田沙耶香《超商人類》(2016 年 7 月)最具代表性意義。

對於《超商人類》一作，當時擔任的評審委員們之間評價、褒貶不一。縱然如此，可將《超商人類》視為東日本大震災後的一部具有指標性意義的作品。本論文應用剖析具有生殖本能的女性與周邊環境關係有效的女性生態主義的觀點，試圖來考察《超商人類》。其考察結果顯示：選擇人工智慧 AI 方式的生存之道的主角，是在真誠面對自己是何物之下，選擇了適合自己的新生存方式。此正是作者村田沙耶香想透過《超商人類》一作，要傳達在既非毀滅、也非積極創造之間，勇於選擇合乎自己的第三種生存方式之新訊息。

關鍵詞：女性生態主義、東日本大震災之後、村田沙耶香、《超商人類》、AI 方式的生存之道

* 淡江大學日本語學系教授

臺灣大學學術期刊資料庫

Reading from the viewpoint of eco feminism Sayaka Murata “Konbini Ningen”: About the birth of learning type artificial intelligence AI-like hero

Tseng, Chiu-Kuei*

Abstract

According to Naoya Fujita, "Reproductive literature" spread after the Great East Japan Earthquake against "bodily literature" spread after the Second World War. In numerous works in the category of "Reproductive Literature", responsibility for the future life is proposed. Among them are "Kinbini Ningen" (2016.7) of Sayaka Murata who won the 155th Akutagawa Award as a typical example of "extinctionism" to select disappearance towards the future.

There are pros and cons among the selection committee against the "Kobini Ningen". However, in looking at the literature after the Great East Japan Earthquake, "Kobini Ningen" must be one index. In this thesis, we attempted to consider "Kobini Ningen" from the viewpoint of eco feminism, which is a effective method for elucidating the relationship between women with reproduction instinct and the environment. As a result, the hero who chose the way of life like Artificial Intelligence AI presents a new way of living that she has gotten a way of life appropriate to what she can be.

Key words: eco feminism, "Reproductive literature", Sayaka Murata, "Kinbini Ningen", the way of life like Artificial Intelligence AI

* Professor, Department of Japanese, Tamkang University, Taiwan

臺灣大學學術期刊資料庫

エコフェミニズムの視点から読む村田沙耶香の『コンビニ人間』—学習型の人工知能 AI 的主人公の誕生について—

曾秋桂*

要旨

藤田直哉によると、第二次世界大戦後に広がった「肉体文学」に対して、東日本大震災後、「生殖文学」が広がったという。「生殖文学」の範疇に入っている数多くの作品では、未来の生への責任が提唱されているなか、未来に向けて消滅を選択する、いわば「消滅主義」の典型例として第 155 回芥川賞を受賞した村田沙耶香の『コンビニ人間』(2016.7)が挙げられている。

『コンビニ人間』に対して、選考委員の間では賛否両論があるにもかかわらず、東日本大震災後の文学を見る上で、『コンビニ人間』は一つの指標となる作品に違いない。本論文では、生殖を本能に持つ女性と環境との関係を解明するのに有効な方法のエコフェミニズムの視点から『コンビニ人間』の考察を試みた結果、人工知能 AI 的な生き方を選んだ主人公の、自分とは何者でしかありえないかに相応しい生き方を得たという新しい生き方が提示されていると言えよう。

キーワード：エコフェミニズム、東日本大震災後、村田沙耶香、
『コンビニ人間』、AI 的な生き方

* 淡江大学日本語学科教授

臺灣大學學術期刊資料庫

エコフェミニズムの視点から読む村田沙耶香の『コンビニ人間』—学習型の人工知能 AI 的主人公の誕生について—

曾秋桂

一、はじめに

藤田直哉によると、第二次世界大戦後に広がった「肉体文学」に対して、東日本大震災後には「生殖文学」が広がった[1]という。その「生殖文学」には、少子高齢化、原発事故、非正規雇用、戦争の予感、サブカルチャーの発展などのさまざまな理由により生殖への欲望が減っていることも描かれているということである[2]。「生殖文学」の範疇に入っている数多くの作品[3]で、未来の生への責任が提唱されているなか、未来に向けて消滅を選択する、いわば「消滅主義」の典型例として村田沙耶香の『コンビニ人間』が挙げられている[4]。

村田沙耶香は、『コンビニ人間』(2016.7)により第 155 回芥川賞を受賞した。選考委員の奥泉光は「本作はこの人間世界の実相を、世間の常識から外れた怪物的人物を主人公に据えることで、鮮やかに、分かりやすく、かつ可笑しく描き出した」[5]と好評した一方、受賞に反対する選考委員の島田雅彦は「主人公はいずれサイコパスになり、まともな人間を洗脳してゆくだろう」[6]と酷評した。『コンビニ人間』に対しては賛否両論があるにもかかわらず、東日本大震災後の文学を見る上で、『コンビニ人間』は一つの重要な指標となる作品に違いない。本論文では、生殖を本能に持つ女性と環境との関係を解明す

1 藤田直哉(2017)「≪生≫よりも悪い運命」飯田一史・杉田俊介・藤井義允・藤田直哉代表編著『東日本大震災文学論』限界研 P457。さらにその特徴を「「科学的な視線をしていること、ドライさが文体や構成のレベルまで反映されていること」を挙げている。

2 同注 1

3 例えば、窪美澄『アカガミ』、村田沙耶香『殺人出産』、『消滅世界』、『コンビニ人間』、竹林美佳『地に満ちる』、川上未映子「三月の毛糸」、斎藤美奈子『妊娠小説』などである。

4 同注 1

5 奥泉光(2016)「芥川賞選評」『文藝春秋』9 月号文藝春秋 P391

6 島田雅彦(2016)「芥川賞選評」『文藝春秋』9 月号文藝春秋 P394

臺灣人文學術期刊資料庫

るのに有効な方法のエコフェミニズムの視点から『コンビニ人間』の考察を試みたい。

二、エコフェミニズム(eco-feminism)[7]の概念

エコフェミニズムの概念についてであるが、「エコフェミニズムは、（自然と女性という）単立した問題についての運動に終始するのではなく、すべての被抑圧集団の解放をめざす思想に至る」と再定義した喜納育江の説[8]を取り入れ、渡久山清美・渡久山幸功は「あらゆる抑圧を生産する支配関係を問い直すのがエコフェミニズムの基本思考であり、特に、グローバル化が進む経済構造や生態系の環境問題の時代を迎えた 21 世紀の現在、このような認識を極めて有効な概念であろう」[9]と帰結した。

本論文では、渡久山清美・渡久山幸功が「あらゆる抑圧を生産する支配関係を問い直す」ことをエコフェミニズムだと広義的に定義したことに従い、以下、それを指針として、『コンビニ人間』を考察することにする。

三、『コンビニ人間』の粗筋と学習型の人工知能 AI 的主人公の誕生

『コンビニ人間』は、1980 年生まれ[10]、36 歳の古倉恵子を主人公とした第一人称作品である。「銀行員の父」(P13)、「少し気弱だが、やさし」い(P13)母、「二つ年下の妹」(P12)と言った「普通の家に生まれ、普通に愛されて育った」(P7)古倉は、「少し奇妙がられる子供」(P7)のため、治療に家族に「カウンセリングに連れて行かれたこと

---

7 本節の記述に関しては、詳しくは曾秋桂「エコフェミニズムの視点から読む『チェルノブイリの祈り』」(2018)「『台湾日本語教育論文集』第 30 号 P186-204 台湾日語教育学会を参照されたい。

8 喜納育江(2011)『<故郷>のトポロジー場所と居場所の環境文学』水声社 P152

9 渡久山清美・渡久山幸功(2013)「エコフェミニズム再考一開発資本主義家父長制に対するオルタナティブな理論としてー」『人間学科』29 号琉球大学法文学部人間科学科 P171

10 「スマイルマートに日色街駅前店がオープンしたのは、1998 年 5 月 1 日、私が大学一年生のときだった」(P14)語りから類推したものであり、そして、作品の現時点が 2016 年だということも分かった。

臺灣大學圖書館典藏資料庫

もある」(P13)。大学に上がった 18 歳に始めたコンビニのバイトにより、古倉は「世界の正常の部品としての私が、この日、確かに誕生したのだ」(P20)と思った。しかし、36 歳の時点で、「二週間で 14 回、『何で結婚しないの?』と言われた」(P88)ことを契機に、クビになったバイト先の元同僚の白羽という無職の男を古倉が下宿に迎え、「餌」(P102、食料品のこと・論者注)を与えて「飼い始め」(P106、一緒に暮らすこと・論者注)る形で、「婚姻」(P86)状態に入った。のち、18 年間も続けてきたバイトを辞めて定職に就くように求める白羽の勧告に従い、面接に行こうとしたが、途中立ち寄ったコンビニで流れた「声」を聞くと、古倉は「この声を聴くために生まれてきたんです」(P149)、「コンビニ店員という動物なんです、その本能を裏切ることはできません」(P150)と自覚し、「この手も足も、コンビニのために存在していると思うと、ガラスの中の自分が、初めて、意味のある生き物に思え」(P151)、コンビニ人間として生きていくことに決心したところで、物語は終わっている。

（一）コンビニ人間になる前—三つの出来事から学習した処世術

幼稚園のとき、公園で死んでいた小鳥を見て、「他の子供たちは泣いていた」(P8)が、母に「これを焼いて食べよう」(P8)と古倉が言ったため、周りから不思議がられたことがある。その発言の背後には「父は焼き鳥が好きだし、私と妹は唐揚げが大好きだ」(P9)というきちんとした理由がある。二つ目の出来事だが、小学校に入ったばかりのとき、体育の時間、男子が取り組み合いの喧嘩をして騒ぎになった途端、「誰か止めて」(P10)という悲鳴を聞いて、古倉は「そばにあった用具入れをあけ、中にあったスコップを取り出して暴れる男子のところに走って行き、その頭を殴った」(P10)ため、職員会議になって母が学校に呼ばれた。その行動の背後にも「止めろと言われたから、一番早そうな方法で止めました」((P10)ときちんとした理由がある。三つ目の出来事としては、教室でヒステリーを起こした女の先生を落ち着かせるため、古倉は先生の「スカートとパンツを勢いよく下ろした」(P11)ことにより、同じように職員会議になって

臺灣人學學術期刊資料庫

母が学校に呼ばれた。その行動の背後にも「大人の女の人が服を脱がされて静かになっているのをテレビの映画で見たことがある」(P11)ときちんとした理由がある。

以上の三つの出来事には理由があり、それを実行した古倉は、世間の反応が「どうしてなのかは、わからなかった」(P12)と、世間と噛み合わなかった。古倉は確かに合目的性に従い、反射的に行動するサイコパス的性格である。その後、「私を大切に、愛してくれてい」(P13)る家族を巻き込むような回りからの非難を避けるため、「皆の真似をするか、誰かの指示に従うか、どちらかにして、自ら動くのは一切やめた」(P12)。以後、「黙ることが最善の方法で、生きていくための一番合理的な処世術」(P12)を守り続けている。「余計なことを口にしないことに成功したまま、小学校、中学校と成長していっ」(P13)て、処世術を身につけた古倉は無事に「高校を卒業して大学生になっ」(P13)たのである。

（二）コンビニ人間として働いている 18 年間—人工知能 AI 型的人間への成長

サイコパスの古倉が 18 年間のコンビニバイトで遂げた成長を順番に見てみよう。

1、人工知能 AI 型的に行動するパターン

コンビニ人間として働くようになった古倉は「客の細かい仕草や視線を自動的に読み取って、身体は反射的に動く。耳と目は客の小さな動きや意思をキャッチする大切なセンサーになる。必要以上に観察して不快にさせてしまわないよう細心の注意を払いながら、キャッチした情報に従って素早く手を動かす」(P6、下線部分は論者による。以下同様)。単なる命令を受けてロボットのように行動するだけではなく、「必要以上に観察して不快にさせてしまわない」ことを目標に古倉は 18 年間コンビニバイトを続けてきた。その行動パターンはセンサーに従って行動を制御する人工知能 AI に近い。この人工知能的行動パターンは、「白羽さんは「底辺」という言葉が好きみたいだった。この短い間に、4 回も使っている」(P64)と言ったよ

臺灣大學學術用資料庫

うに、日常生活の中で出逢った現象を数値化[11]し、例えば、「先日、お店は 19 回目の 5 月 1 日を迎え、あれから 15 万 7800 時間が経過した。私は 36 歳になり、お店も、店員としての私も、18 歳になった。(中略)店長も 8 人目だ」(P20-21)、「けれど、私は確かにあの日と同じ光景を繰り返している。あれから 6607 回、私たちは同じ朝を迎えている」(P70)と言ったような、厖大な統計データーを数字で表示しようとする古倉の行動からも、見ることが出来よう。

2、妹からの助言

コンビニで AI 型的な行動を取ったが、マニュアル以外の質問、例えば何故コンビニバイトをするかで返答に窮した古倉は、妹からの助言で、「地元の友達と会うときには、少し持病があって身体が弱いからアルバイトをしていることになっている。アルバイト先では、親が病気がちで介護があるからだということにしていた」(P35)。また、「プライベートな質問は、ほやかして答えれば、向こうが勝手に解釈してくれるから」(P36)とも妹に教えてもらった。マニュアル以外のコミュニケーションが苦手な古倉の一面が分かった。

3、学習能力の高揚期

「バックルームで見せられた見本のビデオや、トレーナーの見せてくれるお手本の真似をするのが得意だった」(P16)古倉は、コンビニでのバイトを通して、言葉の真似、趣味の真似、擬似表情の真似、思考力向上の 4 点に分けて、成長し、学習効率を上げている。

営業中、マニュアルにない質問を客に聞かれた時、横にいる同僚が「24 時間営業でオープンしております。年中無休です。どうぞ、いつでもご利用ください」(P19)と言った言葉を真似して返答するようにした。また、「特に喋り方に関しては身近な人のものが伝染していて、今は泉さんと菅原さんをミックスさせたものが私の喋り方になっている」(P26)と言語学習力を高めている。

[11] また、「ここ二週間で 14 回、「何で結婚しないの?」と言われた。「何でアルバイトなの?」は 12 回だ。とりあえず、言われた回数が多いものから消去していってみようと思った」(P88)、「16 年前、2 人目の店長に習いました」(P96)もあるように、経験したことを数値に変換する AI 的な傾向がある。

趣味までも同僚の真似をし、「一度だけ、バックムールに置きぱなしになっていたポーチの中をのぞき、化粧品の名前とブランドもメモした。それをそのまま真似してはすぐバレてしまうので、(中略)他のブランドを着ることにしてい」(P26-27)たりして、「周りからは私が年相応のバックを持ち、失礼でも他人行儀でもないちょうど距離感の喋り方をする「人間」に見えているのだろう」(P28)と、世間との接点を持つようにしている。また、「身体の中に、怒りという感情はほとんどない」(P29)古倉が、「菅原さんの表情を盗み見て、トレーニングのときにそうしたように、顔の同じ場所の筋肉を動かして喋ってみた」(P29)。古倉の顔の表情を見た同僚が、「古倉さんめっちゃ怒ってる」(P29)と言った。このように、古倉が他人の表情を見て真似た怒りの擬似表情を表わすことが出来た。古倉は、こうして言葉、趣味、擬似感情の真似に止まらず、思考力を持つようにもなった。例えば、差別された白羽の発言に対して、古倉が「差別する人には私から見ると二種類あって、差別への衝動や欲望を内部に持っている人と、どこかで聞いたことを受け売りして、何も考えずに差別用語を連発しているだけの人だ。白羽さんは後者のようだった」(P64)と物事を判断するようになった。また、コンビニについて白羽が下した悪評に対して、古倉は「コンビニは強制的に正常化される場所だから、あなたなんて、すぐに修復されてしまいますよ」(P 67)とコンビニの性質を十分に把握し、的確に意見を述べた。そして白羽が異物としてシフトから排除された時、古倉は「異物になったときはこうして排除されるんだな」(P69)と思い、他人の経験からその因果関係を突き詰めるように思考力が発達してきた。のちに店長に臨時のバイトを頼まれたとき、「今はまだ、私は「使える」道具だ。安堵と不安、両方を内臓に抱えながら、「いえ、稼ぎたいんでむしろうれしいてすよって!」と、私は菅原さんの喋り方で微笑みかけた」(P79-80)と返事した古倉は、もともとマニュアル以外のコミュニケーションが苦手だったが、学習能力を高揚させ、感情(安堵と不安)、表情(微笑み)、思考力の三者を兼ねた学習型の人工知能 AI 的主人公

臺灣大學學術期刊資料庫

として、古倉はここに誕生したと言えよう。

4、論理的構築力の向上—縄文時代論説を説く白羽への反論

感情、表情、思考力の三者を兼ねた学習型の人工知能 AI 的主人公になった古倉は、マニュアル以外の話題でも反応し、ようやく縄文時代論説を説く白羽に反論するようになった。

白羽が説く縄文時代論説は、例えば「大体、縄文時代から女はそうなんだ。若くて可愛い村一番の娘は、力が強くて狩りが上手い男のものになっていく。強い遺伝子が残っていって、残り物は残り者同士で慰め合う道しか残されていない。現代社会なんてものは幻想で、僕たちは縄文時代と大して変わらない世界に生きているんだ。大体、男女平等だなんだと言いながら……」(P66)という論で、適者生存の生物学的論理を応用し、縄文時代から既に見られる強者から差異化された弱者の構図を描いている。「あんな底辺の社畜に何ができるんだ。僕がしたことを悪いことだとは思わない。気に入った女がいたら見初めて、自分の物にする。それは昔から伝わる男女の伝統じゃないか」(P81)と、「性犯罪者寸前の人間」(P82)の白羽が漏らした不満に対して、「白羽さん、前に強い男が女性を手にいれるって言ってましたよね。矛盾していますよ」(P81)、「じゃあ、先にちゃんと白羽さんがそういう風になって、実際に群がってきた女性の中から選ぶのが筋なのではないですか?」(P81)と、強者を装うだけの弱者である白羽の矛盾を暴いた。すると、白羽は「気まずそうにうつむき」(P81)反論できなくなった。そこで、古倉に 1 回目の勝利を得た。その後に続く「誰にも迷惑をかけていないのに、ただ、少数派だというだけで、皆が僕の人生を簡単に強姦する」(P82)という白羽の発言に対して、古倉は「自分の人生に干渉してくる人たちを嫌っているのに、わざわざ、その人たちに文句を言われないために生き方を選択するんですか?」(P83-84)と反論し、2 回目の勝利を得た。結局「さっきまで文句をつけられて腹をたてていたのに、自分を苦しめているのと同じ価値観の理屈で私に文句を垂れ流す白羽さんは支離滅裂だと思ったが、自分の人生を強姦されていると思っている

臺灣大學學術期刊資料庫

人は、他人の人生を同じように攻撃すると、少し気が晴れるのかもしれない」(P86)と白羽の心境を探り、結論を導き出すことが出来た。このように、他人の真似をし、学習もし、思考するようになった古倉は、白羽の持つ支離滅裂な論説に極めて論理的に反論するように成長した。

5、「性/生」産力を持たないマイノリティー

作品中、「異物」(P82)、「少数派」(P82)と扱われ、「セックスの経験がないだけで、精子の無駄遣いをしているように扱われる」(P101)と不平不満を言っている白羽に、「処女のまま中古になった女がいい歳して」(P98)、「はっきりいって、底辺中の底辺で、もう子宮だって老化しているだろうし、性欲処理に使えるような風貌でもなく」(P98)と酷評された古倉自身も、「性経験はないものの、自分のセクシャリティを特に意識したこともない」(P37)、「やったことのない性交をするのは不気味で気が進まなかったので少しほっとした」(P142)と、性的経験がなく、それに興味がないことを認めている。ここからは、白羽と古倉は共に性的経験も「性/生」産力も持たないマイノリティーだと分かる。

物語の終盤でも作品冒頭でも語られた「コンビニの音」(P3、P145)、「声」(P3、P145)に語り掛けられ、「身体の中にコンビニの『声』が流れてきて、止まらないんです。私はこの声を聴くために生まれてきたんです」(P149)、「私の細胞全部が、コンビニのために存在しているんです」(P149)と意識した古倉は、白羽に向かって「コンビニ店員という動物なんです、その本能を裏切ることはできません」(P150)、「コンビニ店員という動物である私にとっては、あなたはまったく必要ないんです」(P150)と明確に自己意思を伝えた。それは、コンビニ店員になった当初から気づいた「店員になり、世界の歯車になれる。そのことだけが、私を正常な人間にしているのだった」(P22)ことと符合している。「コンビニの音」で甦ってきたコンビニ人間の本能以外に、「コンビニの食料」(P23)を食べたり、コンビニで買った

臺灣大學圖書館期刊資料庫

「ベットボトルの水」[12](P23)を飲んだりし、体中でコンビニのもので循環している身体の故、古倉がコンビニと一体化し、変身した。このように、サイコパスの古倉は、学習型の人工知能AI的人間へと変貌、成長したと言えよう。

四、エコフェミニズムの視点からの読解の試み

渡久山清美・渡久山幸功による「あらゆる抑圧を生産する支配関係を問い直す」エコフェミニズムの定義を指針に、以下で『コンビニ人間』の描く現代社会像を考察してみたい。

（一）マジョリティー対マイノリティー

コンビニのリーダーの泉さんはクビにされた白羽を見て、「社会のお荷物だよ。人間はさー、仕事か、家庭か、どちらかで社会に所属するのが義務なんだよ」(P59)と言った。これは正に白羽が気づいた「この世界は、縄文時代と変わってないんですよ。ムラのためにならない人間は削除されていく。狩りをしない男に、子供を産まない女。現代社会だ、個人主義だといいながら、ムラに所属しようとしない人間は、干渉され、無理強いされ、最終的にはムラから追放されるんだ」(P84-85)、「結婚して子供を産むか、狩りに行って金を稼いでくるか、どちらかの形でムラに貢献しない人間はね、異端者なんですよ。だからムラの奴等はいくらだって干渉してくる」(P98)、「だから現代は機能不全世界なんですよ。生き方の多様性だなんだと綺麗ごとをほざいているわりに、結局縄文時代から何も変わってない。少子化が進んで、どんどん縄文に回帰している、生きづらい、どころではない。ムラにとっての役立たずは、生きていることを糾

[12] 「前に友達と会ったとき身体の中にあった水が、今はもうほとんどなくなっていて、違う水に入れ替わっているように、私を形成するものが変化している」(P33)、「喉が渇いていることに気が付き、水道をひねってコップに水を汲み、一気に飲み干した。ふと、人間の身体の水は二週間ほどで入れ替わるとどこかで聞いたことを思いだす。毎朝コンビニで買っていた水はもう身体から流れて出ていき、皮膚の湿り気も、目玉の上に膜を張っている水も、もうコンビニのものではなくなっているのだろうか、と思った」(P138-139)のように、飲む「水」を人間の精神的形成に譬えたことが興味深い。

弾されるような世界になってきてるんですよ」(P99)という、社会(ムラ)に役立つという価値判断に基準を置く社会法則を指摘している。その法則について、古倉は身近なコンビニバイトを例に、「白羽さんの言うとおり、世界は縄文時代なのかもしれないですね。ムラに必要のない人間は迫害され、敬遠される。つまりコンビニと同じ構造なんですね。コンビニに必要のない人間はシフトを減らされ、クビになる」(P87)と賛同した。社会(ムラ)からすれば、「男なら働け、結婚しろ、結婚をしたならもっと稼げ、子供を作れ。ムラの奴隷だ。一生働くように世界から命令されている。僕の精巣すら、ムラのものなんだ。セックスの経験がないだけで、精子の無駄遣いをしているように扱われる」(P100-101)白羽は余計者である。一方、「ムラからしたらお荷物でしかない、人間の屑ですよ」(P98)と言われた古倉も、「処女で独身のコンビニアルバイトだなんて、三重苦」(P130)を味わっても当然である。マジョリティーからすれば、マイノリティーに当たる白羽と古倉は、白羽の義妹から「社会不適合者」(P129)と呼ばれ、「バイトと無職で、子供作ってどうするんですか。ほんとにやめてください。あんたらみたいな遺伝子残さないでください。それが一番人類のためですんで」(P141)、「その腐った遺伝子、寿命まで一人で抱えて、死ぬとき天国に持って行って、この世界には一欠けらも残さないでください」(P141-142)と言われた。社会(ムラ)に役立つという価値判断の社会法則に基づき、役に立たたない人間の遺伝子は、もちろん欠陥品で残すべきではないと判断される。

（二）マイノリティーからの対応

「金がある相手」(P83)を婚活対象にして「ネット起業」(P83)することを夢みる現実逃避の白羽に対して、「底辺のやつら」(P64)が集まるコンビニでの労働者を見下している人の顔を見ると、「人間だという感じがする」(P63)古倉は、「いろいろな人が、同じ制服を着て、均一な「店員」という生き物に作り直されていくのが面白かった」(P16-17)り、「性別も年齢も国籍も関係なく、同じ制服を身に付ければ全員が「店員」という均等な存在」(P38)として、差別のない所で

臺灣大學圖書館期刊資料庫

安心感を得ることが出来た。

差別されても、社会の基準からはみ出ても、古倉は、「コンビニに居続けるには『店員』になるしかないですよね。それは簡単なことです。制服を着てマニュアル通りに振る舞うこと。世界が縄文だというなら、縄文の中でそうです。普通の人間という皮をかぶって、そのマニュアル通りに振る舞えばムラを追い出されることも、邪魔者扱いされることもない」(P87)と打開策を考え出した。つまり、「皆の中にある『普通の人間』という架空の生き物を演じる」(P88)ことになる。「真っ向から世界と戦い、自由を獲得するために一生を捧げる方が、多分苦しみに対して誠実なのだ」(P88)と提言した上、古倉は、「いろんなことがどうでもいいんです。特に自分の意思がないので、ムラの方針があるならそれに従うのも平気だということだけ」(P88)と決定的な保身術を公言した。このように、縄文時代から文明的には大きく進化した現代社会とは言え、社会(ムラ)に役立つという価値判断に基準を置いた価値判断の社会法則が根本的に変わらない現代社会は、相変わらず、あらゆる抑圧を絶えず再生産する支配被支配関係に成員が置かれることで成り立っている。その支配関係を問い直すには、使える道具として世界に繋がっている部品のような古倉の人口知能 AI 的生き方も、選択肢の一つになるのではないかという点が示唆されている。

『コンビニ人間』には、20 世紀の帝国主義先進各国を非常に強く支配した社会進化論的なメリトクラシーによる優生学思想の構図が見事に再生され、それが現在も継続していることを古倉の人口知能 AI 的生き方を通じて描き出している。かつては極めて政治的イデオロギー的にしかテーマ化されず、二項対立的にしか描くことができなかったこうした階級社会生成の原理を、『コンビニ人間』は、古倉のサイコパス的で AI 的な経歴と、白羽そしてそれを取り巻くコンビニの社会的システムを描くことを通じ、自ら階級社会的な適応を繰り返す行動をすることにより、マイノリティーが再生産される意識構造と社会構成員の葛藤、対立が増産されていく相互関係を見事

臺灣大學學術期刊資料庫

に描き出している作品だと言えよう。地球規模で資本主義的なグローバリズムが大きな歪みを生み出し、それが現代の社会生活への様々な抑圧として現象している現在、そうした抑圧や疎外は今まで捉えられてきたように人間の外にある体制や制度の問題ではなく、人間が自分自身の中に産み出している構造によるという認識を、『コンビニ人間』は見事に指摘していると言っても過言ではなかろう。20 世紀的社会では、抑圧や疎外は自由な主体である人間の外にある政治的経済的機構の問題としてのみ論じられてきたが、『コンビニ人間』はムラ的社会生活に従って生きようとする人間自体が、そうした抑圧と疎外を内から産み出す主体であることを、古倉という人口知能 AI 的生き方によって形象化しているのである。そこには自由で理性的な主体という近代的人間を超えた、自己疎外構造としての人間存在への深い認識が提示されていると言えるのではないか。

五、おわりに

今回、エコフェミニズムの視点から『コンビニ人間』の考察を試みた。考察した結論を以下のように纏める。社会(ムラ)に役立つという価値判断に基準を置いた社会法則からはみ出たコンビニバイトだが、学習を通して、社会と接点を持ち、学習型人工知能 AI 的行動を取っている古倉は、最終的にコンビニ店員という動物である自分の本能に従い、コンビニのために存在している「意味のある生き物に思え」(P151)るようになった。「世界の正常な部品」(P20)、「世界の歯車になれる」(P22)という、世間に抑圧されるコンビニバイトから自分なりに社会に貢献する道を見つけた古倉の行為は、「あらゆる抑圧を生産する支配関係を問い直す」点において見れば、世間にマイナス的意味に取られたコンビニバイトを、自分にプラス的な意味の持つものに転訛した見事な逆転を描いている。

『コンビニ人間』が未来に向けて、消滅を選択した典型例だと言った藤田直哉の消滅主義よりも古倉が選んだ生き方からは生へ向かう積極性を重視すべきであろう。一方、主義よりもコンビニと共に

臺灣大學學術期刊資料庫

生きる道を選んだ古倉は、「生き生きとした人間像の模範」[13]であり、「生きづらさを感じている少数派の人々を肯定し、新たな価値観の登場を促がしている」とした矢野千晶の論調には同感するが、矢野千晶が言った「差の消滅」は難しいであろう。人間社会が存在している以上、社会内の差異は人間であることで必然に生まれる構造であり、差異が消滅することは人間ではなくなることであり、作品の終盤にその消滅も明確に描かれていない。とはいえ、島田雅彦が言ったような「まともな人間を洗脳してゆく」意図も、『コンビニ人間』にはない。エコフェミニズムの視点から読んだ『コンビニ人間』では、人工知能 AI 的な生き方を選んだ主人公は学習能力を高めて、むしろ社会の実態を認識し、人間が人間であることを認識することがいかに困難か、自分とは何者でしかありえないかに相応しい生き方を得たという点に、新しい生き方が提示されていると言えよう。いわば、消滅を選択した生き方と、生へ向かうより積極性を持つ生き方との狭間から、第三の、自分とは何者かでしかありえない人間の生き方として、現代社会での被抑圧者には人工知能 AI 的な生き方しかありえない人間社会の本質的課題が提示されているという点で、『コンビニ人間』は高く評価される作品なのである。

【付記】本論文は、107 年度科技部研究計画案(MOST107-2410-H-032-016MY2)による研究成果の一部分である。なお、論者に関する研究業績を https://orcid.org/0000-0002-5093-582X をご参照。

【テキスト】

村田沙耶香(2016)『コンビニ人間』文藝春秋

[13] 矢野千晶(2017)「差の消滅―田村沙耶化「授乳」から「コンビニ人間」まで―」『同志社女子大学日本語日本文学』第 29 巻同志社女子大学日本語日本文学会 P134

臺灣大學學術期刊資料庫

【参考文献】

藤田直哉(2017)「≪生≫よりも悪い運命」飯田一史・杉田俊介・藤井義允・藤田直哉代表編著『東日本大震災文学論』限界研

奥泉光(2016)「芥川賞選評」『文藝春秋』9月号文藝春秋

島田雅彦(2016)「芥川賞選評」『文藝春秋』9月号文藝春秋

曾秋桂(2018)「エコフェミニズムの視点から読む『チェルノブイリの祈り』」「『台湾日本語教育論文集』第30号 P186-204 台湾日語教育学会

喜納育江(2011)『<故郷>のトポロジー場所と居場所の環境文学』水声社

渡久山清美・渡久山幸功(2013)「エコフェミニズム再考一開発資本主義家父長制に対するオルタナティブな理論としてー」『人間学科』29号琉球大学法文学部人間科学科

矢野千晶(2017)「差の消滅―田村沙耶化「授乳」から「コンビニ人間」までー」『同志社女子大学日本語日本文学』第29巻同志社女子大学日本語日本文学会

臺灣大學學術期刊資料庫